

2015年6月8日
株式会社東陽テクニカ

**世界初！※¹ 400ギガビットイーサネット ルータとテストを接続した
デモンストレーションを Interop Tokyo 2015※²にて公開
～400ギガビットイーサネット実用化への第一歩～**

株式会社東陽テクニカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：五味 勝、以下 東陽テクニカ）は、通信・IT 関連測定器のリーディングカンパニーである、米国 Spirent Communications 社が開発し IP パフォーマンステストツール「Spirent TestCenter」の新ラインアップとして発売した 400 ギガビットイーサネットテストモジュールを、華為技術日本株式会社（以下 ファーウェイ・ジャパン）のコア・ルータ「NE5000E」と接続する公開デモンストレーションを 6 月 10 日（水）より開催の“Interop Tokyo 2015”にて、世界初披露します。

この公開動態デモンストレーションは、400 ギガビットイーサネットの実用化に向けた貴重な第一歩であり、且つ、インターネットの高速化に寄与する歴史的なイベントとなります。なお、東陽テクニカは Spirent Communications 社の国内総代理店であり、今回の 400 ギガビットイーサネットテストモジュールは Interop Tokyo “Best of Show Award” のテスト部門で Finalist としてノミネートされております。



【背景】

インターネットを流れるトラフィックは年々増え続け、2020 年には 2015 年の 4 倍以上になるとも言われています。現在、サービスプロバイダーの基幹ネットワークやデータセンターでは、100 ギガビットイーサネットのネットワーク機器が採用され、増え続けるデータトラフィックの処理を支えています。一方、製品開発の分野ではその次のハイスピードとなる 400 ギガビットイーサネットへの準備が着々と進められております。400 ギガビットイーサネットは現在、米国電気電子学会（IEEE）P802.3bs タスクフォースで技術仕様が議論されており、2017-2018 年頃に各社から製品が出揃うと予想されています。

IoT や M2M※³ など、従来の通信機器以外のデバイスがネットワークに繋がり情報がやり取りされる時代になり、回線スピードの増強がますます必要とされています。IEEE により技術仕様が定義される前の段階で、今回のように実機を用いて 400 ギガビットイーサネットのデモンストレーションを行うことは、400 ギガビットイーサネットを実現できることを証明すると同時に、仕様策定後に各社が製品・サービス開発を一気に加速させるのに大きく貢献することとなります。

【デモンストレーション概要】

Interop Tokyo 2015 のファーウェイ・ジャパンプース（6N21）にて、「Spirent TestCenter」実機をコアルー
タ「NE5000E」と動態展示し、400 ギガビットイーサネットの 100%トラフィックが送受信される様子を来場者に公
開します。従来、400 ギガビットイーサネットの実験が行われても結果のみが公表され、その様子を見ることはできま
せんでした。今回、展示会という公開の場でライブデモンストレーションを行うのは世界初の試みです。ファーウェイ・ジ
ャパンマーケティング&ソリューションセールス本部 ネットワークソリューション担当最高技術責任者である滝広 眞
利氏は、このデモンストレーションに関し次のように述べています。「私たちは、今回の試みが400 ギガビットイーサネッ
トの製品化を加速し、インターネットの発展に貢献できることを嬉しく思います。」

【製品の主な特長】



Spirent TestCenter
400 ギガビットイーサネット テストモジュール

「Spirent TestCenter」は様々な測定を 1 台で実現するコンセプトの元に開発されている、次世代型 IP パフ
ォーマンステストです。スイッチ・ルータのデータパフォーマンス測定だけでなくプロトコルエミュレーションのスケールテスト
も同時に行うことができます。また、ファイアウォール、ロードバランサを測定する際に必要な TCP トラフィックの生成や
セキュリティツールの評価で必要な攻撃トラフィックも生成することができる、まさに次世代テストプラットフォームです。

【ShowNet^{※4}にコントリビュータとして参加】

東陽テクニカは Interop Tokyo のブース出展だけではなく、今年も ShowNet にコントリビュータとして参加して
います。ShowNetとは出展各社から提供される様々な機器を相互接続して幕張メッセイベント会場に構築される
巨大なネットワークで、「最新の機器群を」「最新の技法で」組み上げることで来場者にトレンドを伝えることを目的と
したプロジェクトです。構築されていく ShowNet の性能検証を東陽テクニカがサポートしており、「Spirent
TestCenter」は安定した ShowNet を構築するための必須ツールです。

東陽テクニカは、今後も通信サービスを提供する通信事業者やサービスプロバイダーおよび通信機器製造業者
向け負荷測定器の提供を通じ、通信サービスの高速化と品質の向上に貢献してまいります。

※1 公開デモンストレーションとして。2015 年 6 月東陽テクニカ調べ。

※2 Interop Tokyo 2015 “Endless Possibilities”

会期： 2015 年 6 月 10 日（水）～6 月 12 日（金）

会場： 幕張メッセ

サイト：<http://www.interop.jp/2015/>

- ※3 IoT：（Internet of Things）モノのインターネット。全てのデバイスがネットワークに繋がり情報交換することにより、相互に制御する仕組みの総称。
M2M：（Machine-to-Machine）コンピュータネットワークに繋がれた機械同士が人間を介在せずに相互に情報交換し、自動的に最適な制御が行われるシステム。
- ※4 ShowNetとは、幕張メッセイベント会場に構築されるライブネットワークの総称。
<http://www.interop.jp/2015/exhibitor/outline/index.html#shownet>

<Spirent Communications 社について>

Spirent Communications 社（本社：米国カリフォルニア州）は、IT・通信業で用いられる最新の技術、インフラストラクチャ、アプリケーションを評価するための先進的な測定器、測定手法を開発・提供しています。研究開発ラボおよび通信事業者、通信機器製造会社、一般企業の IT 部門など全世界で幅広く使用され、リーディングカンパニーとして長年通信事業の品質向上に貢献しています。同社のソリューションによって 400G イーサネット、LTE/無線 LAN/衛星通信、NFV/クラウド、IoT/M2M、セキュリティなど、IT・通信に関わるあらゆる観点での性能・品質確認が可能になります。東陽テクニカは同社の国内における総代理店です。

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに日本の技術発展に寄与することを使命として、主として最先端の「測るツール」を欧米の電子計測器メーカーより輸入し、日本の研究・開発者に提供してきました。さらに、「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー、トレーニングなどの取組みは、400 名を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも「“はかる”技術で未来を創る」のスローガンのもと、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。

東陽テクニカ Web サイト：<http://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 情報通信システム営業部

TEL：03-3245-1250（直通）

E-mail：spirent-web@toyo.co.jp

Spirent TestCenter 製品サイト：<http://www.toyo.co.jp/spirenttestcenter/>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。